

(執筆者の許諾を得て掲載しております)

20230531 記事日経新聞 IOCがeスポーツ国際大会開催 競技団体どう向き合うか

IOCがeスポーツ国際大会開催、競技団体どう向き合うか

編集委員 北川和徳 [スポーツの力](#) 2023年5月31日 5:00 [有料会員限定]

国際オリンピック委員会（IOC）は6月下旬にeスポーツの国際大会「オリンピック・eスポーツ・シリーズ」をシンガポールで開催する。IOCは若者に人気のeスポーツを五輪と結びつける方向性を明確にしている。

この動きに国内の競技団体で積極的に取り組んでいるのが日本ライフル射撃協会だ。松丸喜一郎会長は「eスポーツで射撃競技の裾野を拡大できれば」とその狙いを説明する。

銃という武器を使って競う射撃は一般の人が楽しむにはハードルが高い。現在、同協会の会員数は約7000人。国内でも先日の長野県中野市の事件のように銃を使った犯罪が目立っている。現状では会員数の増加は望めないし、大会を支援するスポンサーも集めにくい。

それに対してeスポーツの世界で射撃と親和性の高い「シューティングゲーム」の人気は高い。同協会は弾丸を使わず手軽に楽しめるビームライフル・ビームピストルの大会の開催などにも取り組んでいる。的を狙う競技としてeスポーツを楽しむ人々と連携できれば、競技の未来に向け新たな展開も広がると期待できる。

シンガポールでは国際競技連盟（IF）指定の自転車、野球、ダンスなど10競技のeスポーツが実施される。射撃は最後に決まった。

射撃のゲームは世界的にファンの多い米エピックゲームズ社の「フォートナイト」。敵を撃って倒したり攻撃を避けたりして最後まで生き残るバトルロイヤルが中心だが、五輪の価値観に配慮して人ではなく的を狙う特別仕様のバージョンが用意された。

国際射撃連盟（ISSF）のeスポーツ委員会でIOCやメーカーとこうした対応を交渉した中心は日本協会だという。

シンガポールでの大会で射撃はメーカー側のランキングなどで12選手が招待された。賞金大会などで稼いでいるプロゲーマーたちにも、国の代表として注目を集める五輪の舞台は魅力的なようだ。

五輪でeスポーツが採用され、五輪とつながる大会が継続的に開催されるようになれば、選手の窓口は各IFとなる可能性が高い。選手としての登録が必要になり、競技団体にとってもメリットが生まれる。

政府も五輪での採用を見据え、eスポーツの強化を支援するという。一方で、バーチャル空間のゲームをスポーツと呼ぶことに違和感を持つ人は少なくない。IOCのeスポーツへの姿勢にはビジネスとしての露骨な思惑が感じられ、反発もあるだろう。五輪仕様のゲームが従来のeスポーツファンに受け入れられるかどうかは未知数だ。

eスポーツと向き合っていくことで、五輪や従来のスポーツがどう変わっていくのか、注目していきたい。